
神羅万象

四季 御鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神羅万象

【Nコード】

N7138Y

【作者名】

四季 御鳥

【あらすじ】

人智を超える力を持つ生物、神羅。神羅は契約した人間に啓示を受けさせる代償として、その人間に力を与える。これはそんな神羅を主軸に据え、様々なスタンスの組織が暗躍する物語……

序章 神羅騒乱の原初（前書き）

ええと、このサイトで小説を投稿するのは初めてです。なので至らない点などあるでしょうが、そのあたりご了承ください。

またこれは連載でして、定期的に更新する予定ですが、作者は学生です。忙しい時期です。なので更新が停滞する恐れがありますが、ご了承ください。

序章 神羅騒乱の原初

深夜のとある場所。

そこには自然に一台のトラックが一時駐車しており、その脇の二つの人影は自然な会話をしていた。

「ここで、ようやく半分つてとこか。この街の所は辺鄙なところにあるから大変だよ、ったく」

「愚痴を零すな。今回の任務はただの輸送だが、重要な任務だ。下端である俺達を選ばただけ良かったと思え」

「まーそりやそうだけどよ……にしても、重要重要つて上やらお前やらが言ってるが、俺達は何を運んでんだ？」

人影の一つが、すぐ隣のトラックを軽く叩きながら言う。

「それは俺も詳しく聞いていないが、特別な神羅らしいぞ」

「そりやそうだ。そうじゃなきゃ別の研究所に輸送なんてしねえよ」

「それが今回はその特別の度合いが違う……確か、そう。人型の神羅らしいぞ」

もう一つの人影がそう言うのと、それを聞いた人影は啞然とした。

「……マジかよ。そいつは確かに特別……いや格別と言うべきか。こりゃ、絶対に失敗できないわな」

「そうだ。まあ、このトラックは宇宙船なんかに使われている素材でできてるらしいから、そう簡単には壊れないだろ」

「だな。んじゃ、ちゃっちゃと終わらせようぜ。今から出れば、夜明けまでには終わる」

二人は自分達の任務達成に何の疑問も持っていなかった。それは彼らが自惚れていたという部分もあるだろう。しかしそれは真意ではない。

最大の原因は、彼らが無知だったという他ない。

人型の神羅について、無知だったと言うしかないのだ。

突如として、轟音が鳴り響く。二人は丁度トラックに乗り込む

としていたところで、それを見た。

最初に見えたのは大穴が開いたトラックの荷台。次に見えたのは、そこから飛び出す人影。

「お、おい！ 被験体が逃げたぞ！」

「はあ！？ 誰だよ、簡単には壊れないとか言ったのは！」

二人は慌て、叫びながら逃げ出した被験体を追おうとするが

「……爆式弾頭形態」
モード・エルナート

逃げた人影が振り返り様に、いつの間にか持っていた名にかを地面に叩きつける。すると

地面から爆発が起こり、二人を吹き飛ばした。

「ぐああ！？」

「ぐおお！？」

二人はそれぞれ悲鳴を上げて地面に伏し、その間に、人影は逃げ出した。

月夜に照らされて映るその姿は、可憐な少女だった……

序章 神羅騒乱の原初（後書き）

こんな感じでしょうか？

如何せんまだこのシステム不慣れなものでして、不自然な箇所などあるかもしれません。

感想、指摘などありましたら幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7138y/>

神羅万象

2011年11月21日12時06分発行